

# 山岳ぐんま



## 星野光元岳連会長を偲んで

群馬県山岳連盟会長 八木原 園明



1989.7.24 ツエルマツトにて

一九八四（昭和五九）年一〇月一日付けの岳連報「嶺呂二三号」に星野群馬岳連会長の「会長就任にあたって」という挨拶文が載っている。

後半部分で「この度は就任早々第3次ヒマラヤ遠征の総隊長として歴史的仕事に参加することになりましたことは、身に余る光栄です」とおっしゃる。この時点ではとんでもない金集め役を何度も担わされるとは気が付かなかったのかも知れない。

前任の浜名一雄会長は一九六五

リー峰南東稜登山を実行した。

冬のアンナプルナー峰南壁登山はあかぎ国体後に、世界のヒマラヤ登山界の先端、潮流は「冬季」と感知、予測し、そこに「八〇〇〇m峰」の「パリエーション・ルート」からと更にハードルを上げての計画であった。

（昭和四〇）年に就任され、一九八三（昭和五八）年秋群馬で開催された「あかぎ国体」を県体協会会長として成功に導き、翌年一月四日消えるように亡くなった。浜名会長の下で七二年ダウラギリ4峰と七八年ダウラギ

アンナプルナ登山の登山申請と同時に「二〇年後の冬季、サガルマータ（エベレスト）の南西壁」というとても大計画もネパール政府に申請した。登山とは無縁だった星野さんが会長に就任した時にはすでにこういう状況だった。

八四年、冬の登山のためには一〇月末にネパール入り、一二月のキャラバンとなる。シーズンは最

高。初めてのネパールを堪能する。カトマンズでの隊主催パーティーに招待したクマール・カルカ殿下や金子一夫日本大使、在ネパール日本人会の皆さんとの歓談やゴルフも楽しむ。カルカ殿下はビレンドラ国王の妃の実弟、国王の義弟であったが、〇一年六月一日王宮で発生した王族九人が射殺された事件で亡くなる。

我々にとっては毎夜の星野独演会は面白かった。早稲田の空手部キャプテンの経験よりは、会長室在室とゴルフ場通いのどちらが多いか？と言われる程のプロ裸足のゴルフアは強かった。

一月二九日のベースキャンプ開き、安全登山祈願祭を終えると



1984.11

冬期アンナプルナー峰南壁、BCにて  
左 田中成幸理事長 群馬県旗  
中央 星野光会長 右 八木原園明

同行の田中成幸理事長等と下山するが、一月に再訪する。

あらゆる冬季登山の困難が襲い、我々を苦しめていた。大雪、強風、雪崩、落石、クレバスの踏み抜き等々。一月になり全員がBCまで撤退し、悪天のやり過ぎと休養をする。一〇日間の休養を終え、明日から登山を再開するという一日、星野総隊長と雅子夫人、山田昇の長兄・豊、沼田山岳会の小野正純他の皆さんがBCへ着く。

会長は「今度来るときはヘリコプターだ」と言っていたのだが、またまた歩いて登ってきた。雅子夫人の頑張りには脱帽。甘言にだまされたか？我々も深い雪を踏んでヘリポーター整備を済ませていたが。

鮭、数の子、カツオの生干し、丸干しいわしなど夢のような食べ物が届く。(マグロの刺身などという罰

当たりなことは言いません) スコッチ・ウイスキーで乾杯。ちよつと遅れて正月が来た。再開した登山も諦めざるを得なかった。雪は降り続き、凍傷患者も出る。

自信を持って計画し、我々なら絶対大丈夫との野心的な計画もあえなく諦めざるを得なかった。帰国した我々を待っていたのは映画「植村直己物語」のエベレスト撮影隊の話だった。八五年一〇月、

撮影隊は七人が同時にエベレストの頂上に立ち、アンナプルナの雪辱戦に挑む。

八七年一二月、星野総隊長は三度目のアンナプルナBC入りを果たし、隊員の高所順応訓練登山に付き合ひ、テントピーク(五六六三m)に登頂する。

登山は順調に進み一二月二〇日に山田昇、三枝照雄、小林俊之、斉藤安平が南壁の冬季初登攀に成功するが、小林が頂上直下で、

斉藤がC4帰着直前に転落、行方不明となってしまう。我々のように覚悟の上で登る者は仕方ないが、星野会長にとつては「なんとという登山だ、登山とは何だ」の想いであったと思う。会長にも申し訳ないことをした。八八年五月の日本、中国、ネパール三国合同登山の時の山田、三枝の活躍、秋の八〇〇〇m峰二山の



1984.10 アンナプルナホテルにて  
左から 星野会長、宮崎勉、金子一夫日本大使、クマール・カルカ(カドカ)・シャー殿下



1989.7.24 モンブラン  
シャモニにて

パーティーに招かれた星野会長は牧内社長との懇談の中で岳連創立五〇周年(一九九一年)記念のサガルマータ登山支援を要請する。五六(昭和三二)年の日本山岳会によるマナスル初登頂(毎日新聞社後援)を毎日記者として取材経験のある牧内社長は昨今の大きなヒマラヤ登山の殆どが朝日、読売によつて後援、報道されていることに忸怩たる思いを抱いていた。「わかりました。なんとかしましょう」と即答する。

九一〜九二(平成三〜四)年冬の登山に失敗しスポニチ東京本社を訪れた我々に、牧内社長は「もう一度やるんでしょ、スポニチは応援しますよ」と。星野会長も我々も感動した。次は絶対に失敗出来ない、と誓い合った。

九三〜九四(平成五〜六)年冬の再挑戦前の秋にはチョ・オユ(八二〇一m)を高所順応登山として登る。昨九二年九月ネパール政府は登山規則を変更し「サガルマータは九三年秋のシーズンから隊員数を一隊五名とし登山料は一隊五万ドル(1ドルを一〇〇円として五〇〇万円)とする。希望があれば二名までの増員は認めるが

増員については一名につき1万ド

連続登頂などで少しは癒されたが、一九八九(平成元)年三月にはその山田、三枝を含むマッキンリーでの遭難が起り、またもや葬儀委員長をお願いすることになってしまった。星野岳連はサガルマータの冬季南西壁を諦めていなかった。それを支えてくれたのがスポーツニッポン新聞社であった。九〇年四月、スポニチは前橋支局を開設。披露

ルを納めることとした。それまでは一隊の人数制限無し、登山料は一隊四万三九三九円だった。

財政的負担の激増はやせ我慢するとして、痛かったのは人数制限だった。前回はスポニチ記者を抜けば一七名だった。住吉仙也ドクターと八木原は登山隊から外し、トレッキング許可BCへ入る。

大ハンデイーをはねのけた登山隊は二月一八日に名塚秀二、後藤文明、二〇日に田辺治、江塚進介、二二日に尾形好雄、星野龍史が三次隊まで成功。佐藤光由現岳連理事長は低温、乾燥によりのどを痛め、激しい咳で肋骨を折り、登頂を断念した。

星野会長にとっては念願の事故無しの大成功であった。暮れだか正月だったか、またまたカトマンズへ飛んで来た会長は橋本龍太郎



1993.9.21 チョ・オユ-BCへ向かう チベット高原にて  
左 住吉仙也Dr. 中央 尾形好雄副隊長 右 星野光総隊長

のヒマラヤ登山を実行するが、その全ての総隊長を務めるが現地に赴くことは無かった。

昨二〇一七(平成二九)年二月一九日訃報が届く。満八五歳というが何歳になれば良いと言うことはない。私はすぐに沼田のご自宅へ弔問に伺う。雅子夫人のみでご遺体は斎場に安置されているという。

雅子夫人は「ゴルフだ、山だ、〇〇だと好きなことをしていた。良い人生だったんじゃない?」「先日も病院へ行ったら『どなた様?』と言われた」と苦笑された。

告別式の日、沼田の斎場へ行くときの凄いい生花が並んでいる。後日三〇〇基だったと知る。参加者は約七〇〇名。仕事関係はもろろん大変

な広い交友関係をお持ちであった。仕事も遊びも存分に、豪快にやっけて逝かれた、と思いたい。

「ネパールもヨーロッパも、面白かったですよ。山田、三枝、小松幸三達の引き取りのアンカレジだけは辛かったです。有り難うございました。ゆつくりお休み下さい」



1995.1.2 エベレスト街道トレック  
タンポチェにて

\* 一九三二(昭和七)年一〇月二五日生まれ

\* 一九五二(昭和二七)年四月早稲田大学理工学部土木工学科入学(空手部主将)

\* 一九五六(昭和三一)年四月国土計画(株)入社

\* 一九六三(昭和三八)年四月萬屋建設(株)入社

\* 一九七七(昭和五二)年一〇月群馬県議会議員補欠選挙により県議会議員に当選、三期一〇年務める

\* 一九八四(昭和五九)六月、二〇〇八(平成二〇)六月 群馬県山岳連盟会長を務める(二四年間)

\* 一九八六(昭和六一)年二月群馬県ゴルフ連盟発足と同時に会長に就任し群馬県ゴルフ界の発展に尽力(二四年間)

\* 二〇一〇(平成二二)年度総会で会長を退任し名誉会長に就任

\* 二〇一七(平成二九)年二月一九日逝去(八五歳) 【従六位旭日双光章受賞】

# 北海道アイストツアー

## 沼田山岳会 清野啓介



ディジェグネーター1

北海道の未登山瀑を探しながら旅する石間真里女史。長年クライミング仲間であり、山岳部の後輩でもある斎藤清克。

お目当の『ビッグウェーブ』は再下段が繋がらず登れない。昨日石間女史が偵察した余市白岩漁港にある『ディジェグネーター』が繋がっているとの事、急遽転進を決める。

車で一・五時間、積

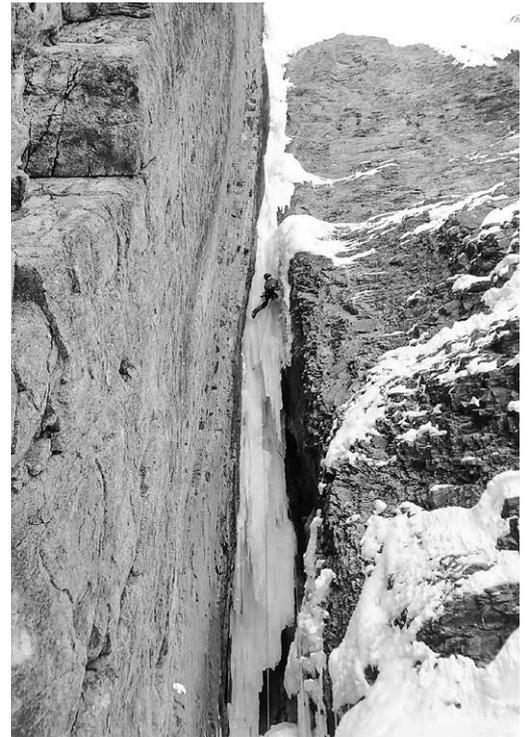
丹半島の北の付根白岩漁港に到着。

潮の退いた磯を辿って岬を回り込むとその氷瀑はあった。

完全独立の三五mの

堂々とした氷瀑。

そそくさと用意をして登攀開始。北海道とはい



白岩シャフト1P

え海岸にできた氷瀑は柔らかめ、少々滴りはあるもののアクセスは良く効く。

石間女史リード、約二時間ほどのクライミングで三人が瀧頭に集合して終了。立木支点で1P懸垂で取りつきに戻る。まだ時間があるので『白岩シャフト』を偵察に行く。

烏帽子岬中腹の凹角に懸かる約



白岩シャフト2P-2

のへつりが二ヶ所。三〇分程で取付きに到着。

これ駄目じゃないかの思いが強くなるが、石間女史はモチベーションマックス。氷柱の裏からスタートしてゆつくりだが着実に高度を稼いで行く。氷だけでなく側壁を利用したり立体的なムーブで非常に面白いピッチ。約二時間で中間テラスに集結。上部もこれまでに以上の困難が予想され時間がかかるが、飛行機の時間も潮の具合

も全てですが儘と同意して続行。ハンクしたツララを貧弱な支点で次々に越えて行くヒリヒリするピッチ。二時間かけて突破する。二人もフォローするが清野のアックス一撃で胴廻り程のツララが崩壊。太ももを強打、登攀を断念。帰宅後筋断裂と診断され、三週間痛みと痣がとれなかった。

七〇mの氷柱。見上げるとツララの集合体、見れば見るほど絶望的に思われるが、石間女史はやる気満々。

《二月四日》

前日と同様に磯を辿るが、潮が引いておらず、落ちたら強制終了

潮の具合と帰りの飛行機の時間に急かされ、斎藤は最上部の草付を割愛して終了。上部は立木、中間はロシア製のスクリューを残置して懸垂下降。シビアなへつりをこなして濡れる事なく車まで戻った。



アプローチのヘツリ

期日 平成三〇年二月三〜四日  
メンバー  
清野啓介 沼田山岳会 北大山の会  
斎藤清克 北大山の会  
石間真里 チーム84  
《二月三日》  
雷電海岸の大物氷瀑『ビッグウェーブ』を完登すべく、昨年と同じメンバーが集まった。

# 後立山連峰冬合宿

前橋山岳会 島袋 詞明

去る年末年始、前橋山岳会の冬合宿は後立山連峰にて行いました。今回、合宿の目的は、北アルプスの稜線を経験すること、同時に冬山生活技術の向上を目指すこと。集まった四人、誰も経験のない後立山を選びまし

迎えた十二月三十日はようやく冬型が緩み、穏やかな晴天が広がる、まさに入山日和。ところが上部は強風がやまず、八方尾根スキー場の上部リフトは運休。しかも徒歩での入山も認めていないという。急遽予定変更し、遠見尾根

この冬は近年ない寒波の連続で、入山前数日間も「今季最強クラス」の寒波に見舞われ、ルート上での深いラッセルが予想されました。



から入山し五竜岳を目指すことに。

歩き始めが11時とかなり出遅れましたが、積雪が予想よりずつと少なく、

先行パーティのトレースもあつたため、順調に進み、どうにか翌日、五竜岳を狙える位置で幕営することができました。翌三十一日は5時に出発し、先輩の指示

で、途中、迷いそうなポイントに赤旗を打ちながら、大きなトラブルなく11時頃には五竜岳山頂に到着。しかし、問題は下降時でした。

急速に天気が荒れ始め、強烈な吹雪とガスでホワイトアウト。数十m先が見えないどころか、足元の雪面の起伏もよくわからないほどで、不安と緊張と焦りで、あつという間に方向感覚と距離感覚が狂い、道間違いを犯してしまいました。一時は下降路と全く違う尾根を歩いているような感覚にさえ



なり、半ばパニック状態でした。

先輩たちの的確な指示でどうにかルートには戻れましたが、そこからはまさに手探りで、一步一步確認しながらの下降となり、往路で打ってきた赤旗に、とてつもなく助けられました。テントに帰り着いた時には、全身疲れ切っていて、暖をとつてようやく人心地ついたのです。そして翌一月一日、雪は降り続いてきたものの、どうにか無事に下山することができまし

た。

今回、思い知ったのは、自分がいかに準備不足だったかということです。先輩たちが、いかに事前に情報収集を行い、いかに歩きながら地形を観察し、いかに登りながら下降の事まで考えているのか本当によくわかりました。例えば今回、好天が続き、下山まで何の問題もなく終わっていたとしても、自分と先輩たちには「無事に成功した」という結果の裏に、万一の事態に備えた危機管理という、目に見えない大きな差があったということでした。今回の冬合宿は、その差をハッキリと浮き彫りにしてくれました。そして普段見えない弱さを、あつという間に浮き彫りにして、本当の力を試される。冬の北アルプスはそういう山域なのだと思知らされました。

これからゴールデンウィークまで、まだまだ後立山での山行を予定しています。今回の冬合宿で気付けたことを活かし、来年、再来年の冬につなげられるように、しっかりと準備をして臨みたいと思います。

# 群馬岳連救助訓練

沼田山岳会 竹 吉 功

十一月二十五・二十六両日で妙義麻芋の滝周辺にて救助訓練が行われました。

今回の救助訓練では、松井田署より四名(二十五日のみ)山梨岳連一名の参加があり、本救助隊の参加が少なく緊張した訓練になると思いつつ、朝一番の張り込みの強度試験に移り、隊長の指導の下ワイヤー・ロープの別に支点に架かる荷重の計測をし、各特性ごとに数値を計測し実践しました。経験・感で物事をするのも



傷病者の梱包訓練

きるかもしれないが、数値等で客観的に知ることでも大事だと思いい、朝一番の訓練が終わり、救助訓練本題に入ることになり、弁天池脇を通り、東屋周辺で検索・降下・引き揚げ・チロリアンを敷設し、一日目の訓練を終了し、夜は懇親会で情報交換等をし、夜は楽しく更けていった。  
二十六日の訓練は日曜日ということもあって、救助隊の参加が昨日の倍くらいになり、頼もしい訓練ができると思いつつ訓練場所の



ロープでのチロリアンブリッジ

ザンゲ岩に向かい、途中昨日のおさらいでロープレスキューの一連の工程を行い、良い汗をかき現場へ向かった。

今回の救助の想定は、動けない救助者一名・自力で動ける救助者が一名設定で行い、一連の行程で引き揚げ搬送までを行った。

今回看護師さん二名の参加もあり、負傷箇所の状況により搬送方法等を検討したほうがという意見をいただき、検討する余地があると思いい、また、想定外も想定内に収まるよう心がけたいと思いいました。本年もあと少しで終わってしまいますが、更なる実践ができるように、来年も目標を持っていきたいと思いいます。



ロープの格納に見入る松井田署員

# 山村救急シミュレーションに参加して

群馬岳連山岳救助隊員 竹 吉 功

平成二十九年十一月十八・十九日両日、山村救急シミュレーションが開催され JPTTECファーストレスポンドコースを受講してきました。JPTTECファーストレスポンドコースとは、救助隊員などの消防吏員、警察官・スキーパトロール・山岳救助隊員等を対象にしたコースで、外傷傷病者の死亡率を改善し、後遺症を軽減することを趣旨としています。

参加者は、この上のJPTTECコースを受講する医師・看護師・介護士・救命救急士の方が大半をしめていて、プロ意識の高さを強く感じて良い緊張感がわいてきて講義にはいつていった。講義の内容は、初期観察の一連で安全確認をして、傷病者の呼吸・脈拍のチェックを行い、怪我の状態を確認し、救急隊の到着までに収集した傷病者の情報を報告する、



傷病者の初期観察実演

という二時間半の講習を終了して修了証をいただき、責任の重さを感じて一日目を終え、二日目は、救助隊の搬送等のデモンストレーションを行い、ヘリの搭乗体験があり、搭乗する事ができ、赤城青年の家から前橋市内上空までの飛行をしてきました。最後にプロの初期観察を見学し、二分くらいで全身観察を終えていて、プロの手



チロリアンブリッジに歓喜をあげる講習生



講習生による搬送訓練

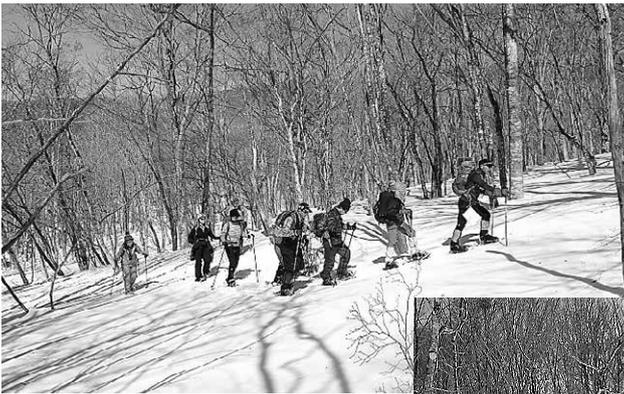
順の良さを感じて二日目は終了しました。  
今回の山村シミュレーションを振り返ってみて、人命救助するためにこれだけの手間暇をかけてプロ意識をもってやっていることが実感できました。  
自分も 人・社会のためになるよう学んだことを実践していききたいと思う。

# 平成二十九年年度登山教室 スノーシュー講習 実施報告

指導委員会 対比地 昇

秋に実施した登山教室の参加者の中からスノーシュー講習の参加者を募り、十四名の方の参加を得て、三月三日(土)、玉原

湿原周辺にてスノーシュー講習を実施した。快晴無風の絶好のコンディションの元で約五時間の講習を予定通り実施することができた。



十四名を玉原湿原周回コースとニヶヶ山コースの二班に分け、それぞれの班に講師三名をつけて講習を行った。秋に学んだ地形図の見方、シルバコンパスの使い方などを復習したり、雪上歩行、雪山で注意すべ

きこと、植物観察、雪洞作りなどの講習を行った。今回は一四名中十一名が雪山初体験者で、踏み跡のないきれいな湿原や遠くの雪山の景色も楽しむことができ、雪山の魅力を感じてくれたようであった。



8:00 沼田インター近くの万屋建設駐車場に集合  
開会式  
たんばらスキーパークに移動

9:20 班毎に行動開始  
14:45 行動終了  
万屋建設駐車場に移動  
15:30 閉会式

受章おめでとうございます

◇秋の褒章

佐藤悦良さん

松井田山岳会

自然保護指導員

永年にわたり登山者の安全を守るため、道標や鎖付けなど登山道の整備に取り組んでこられました。

◇死亡叙勲

星野 光さん

元群馬県山岳連盟会長

従六位旭日双光章を受けられました。

◇高齢者叙勲

小林次郎さん

群馬登高会代表

群馬岳連参与会長

元県遺族の会副会長

旭日単光章を受けられました。

## 岳連トピックス

# 自然保護委員会 平成二十九年度宿泊研修 スノーシューで歩く大幽洞窟の氷筍観察と 雨呼山ピークハント

自然保護委員会 三 田 治 宣

実施日：二月十二日～十三日

参加者：自然保護委員会、賛同有

志の皆さん

毎年恒例年度末の締めくくりとして宿泊研修を行いました。

例会の時に意見を出し合い、氷筍が観られる格好の時期ということで大幽洞窟の散策となりました。

大幽洞窟は近年、スノーシューのツアーコースとして取り入れられ、人気のある場所です。

更に、山としては小さな山ですが、藤原の里を一望できる雨呼山のピークハントもしました。こちらもツアーコースとして取り入れられつつあります。

朝9時にみななみ町道の駅「水

紀行館」に集合。皆で

乗り合わせ、宝台樹スキーを通り過ぎた先の

大幽遊歩道登山口に車を止めました。

大幽沢沿いを登っていくのですが、トレースもすっかり付いていて迷うことはありません。



大幽洞窟



氷 筍

大幽登山口



大幽分岐



まだまだ冬の最中、これからも雪が降るでしょう。しかし、木々は芽を出し始め、春の準備をしています。皆和気あいあい、それぞれ知識を披露し自然観察をしながら歩き、1時間程で大幽洞窟への分岐に着きました。分岐からの急登をまた更に1時間程で洞窟に着きました。インターネットで調べると神秘的な

洞窟に見えますが、実際はこじんまりとしています。しかし、氷筍の出来る時期や環境はかなり限定されますので、一見の価値があると思えました。帰路は、以前スカイビュートレイルの看板付けをした林道を下り、駐車場に戻りました。それから宝台樹スキー場のロッジで休憩後、雨呼山の登山口に移動しました。ツアー会社の送迎車が止めてあるところから、見せ場があることがうかがえます。あちこちに尻セードをした跡があり、雪山遊びには適当な場所かと思えます。

雨呼山の中腹にも氷筍が観られる場所があり、こちらの方が綺麗でした。今でいうところの、インスタ映えしました。雨呼山のもとには民家がある里山です。しかし、標高そのものが高いので、頂上からは宝台樹スキー場の全景、玉原、武尊山方面、上越の山々が見え高度感もあり、360度のパノラマでした。帰路は政五郎山頂上の手前から谷を下り、政五郎洞窟を覗き込み登りとは反対側の登山口に下りました。本日のコースは見どころや変化に富んでいて、ちよつとしたおも



雨呼山

今回の意見交換会には、  
栃木・群馬・茨城から三〇  
委員がよ  
り六名が  
参加したので報告します。

自然公園指導員は、優れた自然景観などを保全し活かす為に制定された自然公園法の下で、国立・国定公園利用者に対し公園利用の際の遵守事項、マナー、事故防止等の必要な助言及び指導を行うとともに、必要な情報の収集及び提供を行うことを委嘱されており、全国で二五〇〇名を超える登録者の内、群馬岳連自然保護委員会では現在七名が委嘱されている。

## 自然公園指導員意見交換会 参加報告(平成二十九年十二月十日)

自然保護委員会 小池寛喜

てなしに、初心者や雪山歩きには十分すぎるコースでした。機会をみてまた来ようと思えました。翌日は自由解散行動で、谷川スノーシュー散策、武尊山スキーと各グループで楽しんで終了となりました。

この行事は、年度末の締めくくりとして、また委員の結束力を高める機会として続けていきたいと思えます。

環境省関東地方環境事務所日光国立公園管理事務所の主宰で、日光地域を活動エリアとする自然公園指導員に意見交換会実施の案内が届いた事から、委員会より六名が参加したので報告します。



環境省関東地方環境事務所日光国立公園管理事務所の主宰で、日光地域を活動エリアとする自然公園指導員に意見交換会実施の案内が届いた事から、委員会より六名が参加したので報告します。

参加者には、管理事務所の職員、県の行政担当者、地元施設の職員、山岳連盟加入の登山者と様々な立場で国立公園利用に携わる者があり、各々の視点からの意見が発表され自然災害や動植物被害だけでなく一般利用者への指導の難しさなどが伝わってきた。

今回主宰の日光地域はユネスコ



の世界文化遺産にも登録されている東照宮を抱えている事から外国人の来場も多く、山岳エリアの対策もマナーを始め安全に楽しんでもらうための道標やトイレの整備など、私が普段歩く山ではあまり感じない意見も多く聞かれ刺激を受けてきた。

マナーの面で手本にならない日本人が多い事を嘆く意見もあり、声掛けの仕方など実践されている例は勉強になった。誰でも楽しむと公園内に来ているのであるから、上手な声掛けで気付きを与えれば改善されるので厳しい言葉で注意して関係を悪くする心配をしなくても大丈夫らしい。特にペットを自由に気ままに振舞まわしている方には、リードを付けて飼い主と一緒に指定歩道内を歩く事で信頼関係が深まる事や寄生虫の危険性を抑えられると伝えて野生動物植物



への影響を抑えるという実践例には感心した。

国立公園などは景観が優れている事からも都市生活を送る人々を惹きつける力がある事は皆さん理解していると思う

が、世界における日本の地理的条件に育まれた自然と歴史的文化的魅力を損なわない為にも、多くの方々に課題と対応についての認識の共有が必要であり、それを上手に伝えられる力量を持たなければならぬと改めて感じさせられた。



今回は自然公園指導員に限定されたものであったが、屋外で活動する皆さんが参加して感じる事が出来る機会は大切である。

群馬岳連で主催している自然観察会や県民登山大会もその一端を担う働きをしているのだと考えると、ひとつひとつのイベントに参加していただいた皆さんが自然公園の枠を超えて公共の利益の為に働きかけるキッカケを掴む大事な場所なのだ。我々はその事を忘れる事無く、手本になって山を歩いて行かなければならないと考えさせられた意見交換会であった。



株式会社エーアールアイ  
東京都練馬区上石神井 3-18-1  
TEL 03-5991-4638

弱電工事承ります。  
電話工事、ネットワーク工事及びセットアップ(LAN 及び Wi-Fi 環境)、  
TV アンテナ及びケーブル工事  
パソコンで悩んでいませんか?  
ソフトの使い方はわかりませんが、ハードの悩みは相談してください。  
(難しい故障の場合は外注となります。)

## ミヤマネットワーク

代表 佐藤光由  
群馬県前橋市高花台 1-6-5  
電話 027-269-1143 携帯 090-8842-2158



# (有) 山とスキーの店 石 井

## **DreamBOX**

伊勢崎市宮子町 3448-2  
TEL 0270-21-8025 FAX 0270-21-8026